

ウガンダ根っ子通信 # 1

～なぜ日本を離れて青年海外協力隊へ～

自己紹介

青年海外協力隊 ウガンダ隊員
山本直輝(28)。

太宰府市内で生まれ、学生時代を奈良県・京都府で過ごす。学生時代は野球部に属し、体育大学在学中にカナダ・オーストラリアにて小学生に対する英語教授法を学ぶ為に留学し、帰国後フィリピンの孤児院にてボランティア活動。その後、太宰府市内の小学校に5・6年生の担任として2年間勤務。現在はアフリカ大陸のウガンダ南西の街、マサカ県にある公立小学校で算数と体育、放課後のスポーツ活動を担当している。

青年海外協力隊とは

青年海外協力隊とは、ご自身の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々の為に活かしたいと望む方をボランティアとして原則2年間派遣する国際協力機構(JICA)の事業です。

青年海外協力隊は受入国からの要請に基づいて派遣され、募集は毎年2回、春と秋に行われている。また、求められる技術、知識や経験、免許や資格などはそれぞれの要請により異なります。



青年海外協力隊参加への理由

私が青年海外協力隊への参加を考える様になったのは、海外留学後にフィリピンでの孤児院にてボランティア活動を行ってからです。当時、私は大学4年生で22歳でした。小学生の時に野球を始め、中学・高校・大学と練習の日々であった為、教師になる前に多くの世界を見ておきたいと思ったからです。

フィリピンで出会った子供達は幼い頃から両親がいない為、甘えるということに飢えていました。私は1人の5歳の男の子を忘れることが出来ません。私が孤児院に滞在していた間、小さな手で私の小指をずっと握っていました。そこで私は自身の無力さを実感し、私が出来た支援は遊び相手になることと、普段食べることが出来ないお菓子を孤児院の子供達の為に買うことでした。孤児院を離れる日、何も出来なかった私の元へ近所の人々が「来てくれてありがとう！」と握手を求めてきました。何も出来なかった私にです。

この時に決めました。日本の学校で経験を積んで、今度こそ支援の目的が明確な、また、子供達の将来に繋がる活動が出来るボランティアとして開発途上国に帰って来ると。派遣先はアフリカ大陸のウガンダですが、子供達の将来の為に働く事には変わりません。そして、いつかフィリピンの子供達に会いに行こうと思っています。

ウガンダの位置と大きさ



ウガンダと聞いて、位置が明確に思い浮かぶ人は少ないと思います。実際に私も派遣国が決まった時に地図で位置を調べました。ウガンダはアフリカ大陸東部に位置し、赤道直下の国です。

ウガンダの面積は日本の本州とほぼ同じ面積になります。

国旗と言語



黒はアフリカ人を、黄は夜明けの太陽を、赤は人民の同胞愛を意味しています。中央の鳥はカンムリヅルで、特定の部族や王の象徴になった事が無い中立性が採用されています。

ウガンダは英語とスワヒリ語が公用語となっていますが、田舎の方では現地語が話される事が多く、私の任地ではルガンダ語が話されています。田舎に行くほど英語が通じないので、現地語を話せばとても喜ばれます。

ウガンダの写真



ウガンダで有名なタクシーパーク。



折り紙遊び。

お知らせ・
次回はウガンダの教育事情について書きたいと思います。
多くの方にウガンダの事を知って頂くことも我々の活動です。今後とも宜しくお願い致します。